

実績報告書

届出者	住所	東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 17F	氏名	株式会社ファミリーマート 代表取締役社長 澤田 貴司
特定事業者の主たる業種		58飲食料品小売業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		コンビニエンスストアのフランチャイズ展開を行っており、全国で 16,840 店舗出店し、うち大阪府内では、 1,445 店舗（平成29年9月末現在）の出店を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	32,402 t-CO ₂	129,808 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	38,123 t-CO ₂	152,784 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (29 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	-3.6 %	-60.6 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-3.3 %	-60.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (店舗数)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>(株)ファミリーマートと(株)サークルKサンクスが平成28年9月1日付で経営統合したことにより、店舗数が増加し排出量が増加しました。 また、原単位についても、一店舗当たりの電気使用量がファミリーマート店舗の方が多いため、増加しています。</p>	
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

環境マネジメントシステムの推進、省エネシステムへの既存店への導入推進、及び店舗運営面での省エネの取組みを図る。管理本部 CSR・コンプライアンス部主導の下、建設部、関西第2・第3ディストリクトと連動し、目標の設定、進捗確認のシステムにより推進していく。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	全ての店舗	コード (1113) 空調の運転管理	空調機の設定温度自動復帰機能にて、室内の温度設定の適正化を図る	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全ての店舗・事務所	コード (1199) 運用による対策	店舗あて環境教育リーフレットで店舗の省エネの取組みの強化を実施 (エアコンフィルター清掃 (週1回)、不要電気の消灯)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	新店・改装店舗	コード (1299) 省エネ設備の導入	新店舗、改装店舗についての省エネ効果の高い総合熱利用システム、店内照明調光システム等省エネ設備を導入する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	一部の店舗	コード (1222) 再生可能エネルギーの供給	太陽光発電設備による再生可能エネルギー (電力) の供給。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市淀川区加島2-2-1	氏名	福山製紙株式会社 代表取締役社長 板倉 直人
特定事業者の主たる業種		14パルプ・紙・紙加工品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		段ボール中芯原紙、紙管原紙の製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	80,398 t-CO ₂	76,319 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	80,415 t-CO ₂	76,333 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3.1 %	0.5 %	-0.4 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0.5 %	-0.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>基準年度の原単位ベースで-0.4%と未達成となってしまった。抄紙用具の見直しは順調に推移しているが、電力消費設備の運用効率が悪かった上に、販売低迷から生産設備の停止が多くなり、電力原単位が悪化したことが要因。(排出量ベースでは基準年比5.1%の削減ができています。)</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当社は平成12年にISO14001の認証取得を完了し、PDCAサイクルを利用した省エネルギーに取り組んでおります。当社の製品は古紙を100%使用したものであり、リサイクルを行う企業の代表的な業種であり、リサイクルを含めた省エネルギーは、社の命運を左右するものであるとして、社長以下会社組織全体がGHG抑制のための組織と考えます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社	コード (1199) 製造工程の運用方法見直し	製造工程の運用方法見直し	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	本社	コード (1199) 抄紙用具見直しによる蒸気使用量の削減	抄紙用具見直しによる蒸気使用量の削減	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	本社	コード (1215) 抄紙機24時間停止時の不要設備停止	抄紙機24時間停止時の不要設備停止	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	広島県福山市東深津町4-20-1	氏名	福山通運株式会社 代表取締役 小丸 成洋
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主にトラックを利用した小口貨物の運送事業をおこなっており、全国で約400箇所の支店・営業所を擁し、うち大阪府下に15箇所の支店・営業所で営業を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,065 t-CO ₂	3,349 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,136 t-CO ₂	3,428 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	-18.8 %	-9.3 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		-	-20 %	-9.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>人員不足を補うために荷役機器の導入・活用を進めたことで、電気量増加した。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

--

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全事業所	コード (1216)	事務所内エアコン温度25度設定	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全事業所	コード (2123)	①アイドリングストップ運動 ②CNG車導入 ③トラック協会主催チャレンジコンテ スト参加	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都 千代田区内幸町2-2-2	氏名	富国生命保険相互会社 代表取締役社長 米山 好映
特定事業者の主たる業種		67保険業（保険媒介代理業、保険サービス業を含む）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		個人・企業向けの保険商品の販売と保全サービス、財務貸与・有価証券投資など		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	8,859 t-CO ₂	7,916 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,912 t-CO ₂	8,810 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (29 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	-1.1 %	13.3 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-1.3 %	13.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (延床面積×入居率)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

当社は保険業を中心に事業活動を行っていると共に、賃貸ビルも所有しています。延床面積を母数に排出原単位を設定し、大阪府内における温室効果ガスを、省エネ法のエネルギー使用量削減目標と同様に原単位ベース年1.0%削減、目標年度である平成29年度において3.0%削減する目標を掲げるとともに、総排出量についても削減に努めていきます。

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

今年度は基準年度に比べ、延床面積×入居率は増加しましたが温室効果ガス排出量は減少しました。原単位ベースでは13.3%の削減となり、昨年度以上の削減を達成することができました。会社全体で継続して省エネ活動を啓蒙していくなかで、省エネに対する意識が従業員の根底に根付いてきたように感じます。また、一部の事業所にてデータ収集方法に誤りがありこちらを是正したことも、原単位ベースの削減に寄与したと考えています。今後も正確なデータ収集を行うとともに、継続して省エネに取り組んでいき温室効果ガスの削減に努めていきます。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

自社所有ビルについては各建物毎のPM会社管理の下、共同でエネルギー管理、省エネルギー推進を行っています。賃貸ビルも含め下記項目を重点的に実施し、排出量抑制に取り組んでいきます。

【空調】 外気条件による稼働調整、不要時の停止、温度管理の徹底

【照明】 共用部での間引き・消灯、人感センサの設置、不要な照明の消灯

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1122) 空気調和設備 の運用改善	外気条件により、セントラル空調熱源機 の稼働を判断、中間期は停止、外調機の 送風のみで対応	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (1122) 空気調和設備 の不要時の停 止	空調の基本時間設定 (例：8-18時)。そ れ以外は、原則、空調停止	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (1122) 空気調和設備 の不要時の停 止	空調の消し忘れ防止を設定 (時間外に自 動停止を行う)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	全事業所	コード (1122) 空気調和設備 の温度管理	冷房空調温度を28℃に設定 (共用部、 専有部)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全事業所	コード (1126) 不要部分の照 明の消灯	廊下などの共用部で間引き、消灯の実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	全事業所	コード (1218) 人感センサの 設置	湯沸室などに、人感センサを設置	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	全事業所	コード (1126) 不要部分の照 明の消灯	不要な看板灯、外灯などの消灯	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		～ 年度
		人工排熱				

(3)その他の抑制対策

弊社が静岡県伊東市宇佐美に保有する緑地においても「竹害」は広がっており、この緑地の保全を弊社役員の手によって行う活動、「『フコク生命（いのち）の森』プロジェクト」を平成18年度より実施しております。
この活動は、竹林の伐採による森林の再生だけでなく、竹林自体も健全な状態に戻していくことを目標としています。

平成19年度より本社内にて「ペットボトルキャップ回収活動」を開始いたしました。回収したペットボトルキャップをリサイクルすることで、CO2発生の抑制や省資源化に貢献しております。

実績報告書

届出者	住所	東大阪市布市町3丁目6番21号	氏名	医療法人藤井会 理事長 藤井 弘史
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		一般病院		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,161 t-CO ₂	5,873 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,562 t-CO ₂	6,242 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	4.9 %	4.7 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	5.2 %	4.9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (延べ床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>今後も空調設備・照明設備の更新を確実に実施し平準化時間帯の電気使用量を削減していきたい。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>省エネルギー推進委員会の開催（月1回） 各施設において3カ月に1回エネルギー使用量についてチェックし、対策を検討する</p>

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	石切生喜病院	コード(1216) 空調設備の更新	第5病棟の古いGHPの更新 (平成27年度に更新した)	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	石切生喜病院	コード(1216) 空調設備の更新	1病棟2階GHP更新 (平成27年度に更新した)	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	石切生喜病院	コード(1216) 空調設備の更新	1病棟6階GHP更新 (平成27年度に更新した)	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	石切生喜病院	コード(1218) 照明器具の更新	1病棟1階及び5病棟待合ホールをLED照明に交換する	27年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大東中央病院	コード(1216) 空調設備の更新	ナースステーション・ICU・総務系統空調機更新 (平成28年度に更新)	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	大東中央病院	コード(1216) 空調設備の更新	オペ中央材料室系統チラー更新	28年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	大東中央病院	コード(1218) 照明器具の更新	古い誘導灯をLED誘導灯に取替 (平成27年度に更新した)	28年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	北河内藤井病院	コード(1216) 空調設備の更新	3・4階病室(大部屋)の空調機更新 (平成28年度に50%更新)	28年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	みくりや診療所	コード(1216) 空調設備の更新	1階系統及び2階レントゲン系統の空調機更新 (平成28年度に更新)	27年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	藤井外科	コード(1216) 空調設備の更新	3階リハビリシステム空調機更新	28年度 ～ 30年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
					年度

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都港区虎ノ門4-3-20	氏名	富士火災海上保険株式会社 代表取締役社長 横山 隆美
特定事業者の主たる業種		67保険業（保険媒介代理業，保険サービス業を含む）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		損害保険業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,452 t-CO ₂	2,758 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,920 t-CO ₂	3,125 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	3 %	10.4 %	24 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	10.1 %	24.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (延床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<ul style="list-style-type: none"> ・電気等のエネルギー使用量については、自社ビル売却によるテナントビルへの移転および高効率機器への更新等で減少している。 ・自動車のエネルギー使用量については、送迎用バス6台全車両の廃車およびビル移転時における余剰車の廃車並びに低燃費車両の購入推進等により減少している。 	
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

事業所でのエネルギー使用量の削減に関しては、ビル管理者を含む専門家の意見を参考にしながら、施設運営における節電対応および設備更新時での高効率機器への更新を推進する。
自動車に関しては、引続き低燃費車両への切替とテレマティクス導入での総台数の削減を推進する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	全事業所	コード (1112) エネルギー使用量の把握	エネルギー使用量を「見える化」し、毎月のエネルギー使用に対する監視及び削減対策を実施する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	全事業所	コード (1113) 空調施設の運転管理	空調運転の自動制御システムを導入し、運転量を制御し、エネルギー使用量を削減する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	全事業所	コード (1215) 高効率機器への更新	更新時期にある空調機・変圧器等を高効率機器へ更新する。 平成28年度計画に基づき実施。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	全事業所	コード (1218) 高効率機器への更新	更新時期にある照明器具を高効率機器へ更新する。また、蛍光灯の間引き使用を継続する。 平成28年度は更新なし。 間引き使用は継続実施。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	全事業所	コード (2121) 社有車の購入	社有車購入時に、低燃費車を購入する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブの推進	社有車のエコドライブを情宣する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	全事業所	コード (2113) テレマティクスの導入	テレマティクス導入で、エコドライブの推進および適正配備の検証で総台数の削減に繋げる。28年度は本社ビル売却によるビル移転を機に余剰車を見直し、大幅な減車を実施した。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪堺市堺区築港八幡町 1番地の23	氏名	フジ建機リース株式会社 代表取締役 花岡 伊佐子
特定事業者の主たる業種		70物品賃貸業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、高所作業車、クレーン付トラック及びフォークリフトのリース、レンタル		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日	～ 平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	483 t-CO ₂	417 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	483 t-CO ₂	418 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) 7 %	18.1 %	13.7 %	0 %
		削減率(原単位ベース) 0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	18 %	13.6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>車輦入替によりクリーンディーゼルや省エネ車輦等の導入及び社内の省エネ制度取り込みにより効果が表れた。</p>	
-----------------------------------------------------------	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

社内体制を整備し、環境思考の教育等を社内に展開する。
また、毎月の社内会議にて、推進状況等を報告し、現状改善等を検討する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社	コード (1111) 推進体制の見直し	社内の推進体制を見直し、ワーキンググループの設置	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	本社	コード (1112) エネルギーの データ管理	データの収集方法や管理方法等を見直し、電子化にする	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	本社	コード (1122) 社内の冷暖房 設備の利用を 改善する	省エネルギー思考の展開。冷暖房の温度設定 (冷房：28度、暖房：20度) を徹底する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	本社	コード (1218) LED照明機器 の導入	LED照明機器の導入により、少エネルギーと共に二酸化炭素の削減	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	本社	コード (5113)	省エネCPU等のPCを順次に導入	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社	コード (2114)	データの収集方法や管理方法等を見直し、自動車の適正な維持管理を行い整備記録を電子化する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社	コード (2121)	車両の定期入れ替え時に、より低燃費車を導入する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	本社	コード (2123)	社員及び協力会社のエコドライブ意識を高める。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市西区石津西町12	氏名	富士酸素株式会社 代表取締役社長 成田 昌信
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		大気を原料に、圧縮機で圧縮し、液化し、沸点の差を利用して酸素、窒素、アルゴンの製造を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	57,709 t-CO ₂	59,598 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	61,858 t-CO ₂	63,781 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (29 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	2 %	-0.2 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	2.3 %	0.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>生産量が前年度より増加したものの、プラント定期修理においてプラント内の不純物を取り除くための加熱作業を実施したために製品に寄与しない電力を消費したことにより、原単位が前年度より悪化した。今後も照明LED化などを推進して目標とする基準年度比3.0%削減の達成に努めていく。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

省エネルギーに関するポスターの掲示を行い、朝のミーティング時において従業員に対し啓蒙を行っている。
また年1回のQC活動（3月に発表会実施）を推進することにより、省エネ項目の洗い出しを実施する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	富士酸素(株)	コード (1113) 運転方法見直し	リサイクル系装置の生産量増量及び動力削減により最適運転を実施。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	富士酸素(株)	コード (1113) 運転方法見直し	余剰ガスの有効利用により装置の動力削減を実施。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	富士酸素(株)	コード (1113) 運転方法見直し	圧縮機の運転範囲を見直すことで動力削減を実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府岸和田市土生町1-4-23	氏名	フジ住宅株式会社 代表取締役 宮脇宣綱
特定事業者の主たる業種		68不動産取引業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		分譲住宅（戸建 マンション）事業 中古住宅再生事業 個人投資家向け賃貸マンション販売事業 土地有効活用事業 賃貸及び管理事業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	2,390 t-CO ₂	2,312 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	2,580 t-CO ₂	2,528 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	4.3 %	3.3 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	3.7 %	2.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>第1年度に比較して第2年度の今年度は削減率は減少しましたが、削減目標はクリアすることができました。</p> <p>削減目標をクリアした主な要因としては、LED照明器具の導入事業所を第1年度よりも拡大することができたことが考えられます。</p>	
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

デマンドコントローラーを設置し、「電力の見える化」を実施し、従業員への省エネ活動を喚起することに努めます。又、全社的な温室効果ガスの低減目標に向けての具体的な活動として、社有車のエコドライブ運転、ハイブリット車への入替え、クールビズの早期実施、省エネエアコンの導入、エアコンの設定温度27度の維持などを推進して参ります。又、一部のビルにてLED照明への変更を実施しております。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1215) 事業所の換気改善	ガスを極力使用いたしません。お湯は、電気にてわかします。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1112) 電力使用量の見える化	最大電力量を抑えるデマンドコントローラーを設置したことにより、電力使用量削減に効果をあげています。電気使用量の見える化を実施致し、省エネ行動を行	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1122) エアコンの効率稼働	エアコン室外機への放水及び遮熱、フィルターの清掃等により夏場の冷房の稼働率を削減致しました。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(4999) 漏電監視装置の設置	漏電等の早期発見のため、漏電監視装置を設置し、異常値が発生すると、警告されるシステムを導入いたしました。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	本社ビル	コード(1216) 新型エアコンの導入による設備改善	旧型のエアコンから、省電力エアコンへの導入を積極的に行います。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1111) クールビズの導入	クールビズを導入しており、全社員に省エネ活動の積極的参加を呼びかけております。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1215) 白熱灯から蛍光灯への付け替え	白熱灯から蛍光灯への付け替えを実施し省電力化に努めております。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1199) 書類の溶解処理	書類の廃棄については薬品による溶解処理を実施しており、焼却ごみより生じるCO2の削減に努めております。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1199) 自家用車による通勤の抑制	自家用車による通勤については許可制とし、特段の事情が無い限り公共機関の使用を原則としており、自動車の使用を抑制しております。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	本社ビル 第2ビル 第3ビル 第5ビル 第6ビル	コード(1218) LED照明への入替え	蛍光灯からLED照明への入替えを順次、行っております。	0年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブ の推進	事故軽減、省燃費を目的としてエコドライブの実践を推進しており、不要なアイドリングを禁止します。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (2114) 自動車の適正 な維持管理	日常の点検・法定点検の実施により、良好な整備状態を維持します。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (2123) カーナビの導 入	ほぼすべての車両にカーナビを設置し、効率的な走行を行います。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	全事業所	コード (2121) 低燃費車の導 入	現行の車両から入替えの際、ハイブリット車に入替えを行い、燃料の消費や大気汚染の軽減に繋がります。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
5	レ	GHG排出	全事業所	コード (2226) E T C導入に よる省燃費化	全ての社有車にETCを装着しています。料金所での渋滞の緩和・解消により、燃料の消費や大気汚染の軽減に繋がります。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉佐野市住吉町1番地	氏名	不二製油 株式会社 代表取締役社長 大森 達司
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		食品素材の開発・生産・販売を行っており、国内に8ヶ所の工場と12のグループ会社で生産活動を行っている。 又、5ヶ所の支店・営業所を構えており、大阪には1ヶ所の支店がある。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	118,391 t-CO ₂	123,350 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	117,375 t-CO ₂	123,894 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	5.3 %	6.5 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	4 %	5.3 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (補正後の生産数量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪南事業者内の生産工場にて、省エネ手法を使った生産工程・運転設備状況を調査し、最適化に向けた改善を実施し、他の工場への展開も継続実施中。 ・ ピンチテクノロジーを用いたプロセスの熱回収を実施、継続して取り組み中。 ・ 定期的にエネルギー管理者・技術部門・保全部門の管理者が集まり、計画中の省エネ案件や新規取り組み案件等についての技術的内容や省エネ効果、及び進捗等の確認を行い、省エネ推進に努めている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境改善・省エネに関する教育を各事業所、グループ会社にて展開中。 ・ 国内の全事業所・グループ会社にてコンプレッサーの省エネを展開中。 	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

- ・ 全社的に環境保全活動に取り組むため環境マネジメントシステム（ISO14001）の生産拠点全ての導入が完了。
大阪府内においては、阪南事業所は2000年、堺工場は2003年、りんくう工場は2010年に各々ISO14001を認証取得し継続運用中。
- ・ 2ヶ月毎に全社の環境に携わる関係者により、テレビ会議にて環境保全委員会を開催し、環境保全対策の進捗の報告、全社の検討課題等の情報交換を行い環境保全活動を継続的に推進している。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	阪南事業所	コード(1225) 油脂分別法の技術開発	N 技術開発 → 実施年 30年度に変更 油脂分別法の技術開発 <small>(年間 700 t-CO2を削減)</small>	27年度 ～ 0年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	阪南事業所	コード(1123) 濃縮ドレン等の熱回収	S6 熱回収 HWW濃縮ドレン等より熱回収を行うことで工場入口でDW昇温を行い、4K蒸気削減を図る (H.28年1月 完了) <small>(年間 500 t-CO2を削減)</small>	27年度 ～ 28年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	阪南事業所	コード(1123) ピンチテクノロジーを用いたプロセス熱回収	F、N 熱回収 → 中断(実測値と設計値の差により熱回収困難) ピンチテクノロジーを用いたプロセス熱回収の検討 <small>(年間 540 t-CO2を削減)</small>	27年度 ～ 0年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	阪南事業所	コード(1126) 冷凍機更新	ON 冷凍機更新 高温系冷凍機更新による省エネ (H.28年9月 完了) <small>(年間 154 t-CO2を削減)</small>	28年度 ～ 0年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
5	レ GHG排出	阪南事業所	コード(1123) 乾燥機のドレン回収	S2 熱回収 → 29年度以降に変更 乾燥機ドレンを、ETへの添加水として利用する事による省エネ <small>(年間 240 t-CO2を削減)</small>	28年度 ～ 0年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
6	レ GHG排出	阪南事業所	コード(1123) 熱回収	S6N 熱回収 排熱を熱交換器とUTTへの供給で最適化を図る <small>(年間 190 t-CO2を削減)</small>	29年度 ～ 30年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
7	レ GHG排出	阪南事業所	コード(1125) ペーパー熱回収	S6 熱回収 → 30年度以降で再計画 S6濃縮器の3rdペーパー(60℃)を使ってCN-2循環加熱(45→53℃)を行い、CN-2の使用蒸気削減を図る <small>(年間 95 t-CO2を削減)</small>	29年度 ～ 0年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
8	レ GHG排出	阪南事業所	コード(1122) 蒸留負荷低減	ON 負荷低減 → 中止 分別処理変更による蒸留負荷低減 <small>(年間 80 t-CO2を削減)</small>	27年度 ～ 0年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
9	レ GHG排出	阪南事業所	コード(1299) 省エネポンプ	I3 省エネポンプ 冷却塔の送水ポンプを現状の運転点に合った省エネポンプに更新し省エネを図る (H.28年6月 完了) <small>(年間 21 t-CO2を削減)</small>	28年度 ～ 0年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

10	レ	GHG排出	阪南事業所	コード(1218) 照明のLED化	HAC 照明LED化 阪南場内の道路灯に使用されている水銀灯をLED灯に更新することで省エネを図る (28年12月完了) (年間 21 t-CO2を削減)	28年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	阪南事業所	コード(1113) 空運転の短縮	S1 運転改善 → 中止 デカンターの空運転を短縮することで省エネを図る (年間 17 t-CO2を削減)	27年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
12	レ	GHG排出	阪南事業所	コード(1126) アイスバンク・冷凍機更新	V3 冷凍機更新 → 中止 アイスバンク(ダイナミック型へ)及び冷凍機更新による省エネ (年間 14 t-CO2を削減)	28年度 ～ 0年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード(2121) 低燃費・低公害車の導入推進	車両更新時の低公害車導入の継続	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

<p>・アドプトフォレスト制度に参画し、温室効果ガスの抑制に努めている。</p>

実績報告書

届出者	住所	柏原市本郷5丁目5番48号	氏名	富士電線工業株式会社 取締役社長 永野 隆彦
特定事業者の主たる業種		23非鉄金属製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>当社は大阪府柏原市におきまして、住宅建設用、エコ関連用などをはじめ、各種電線、ケーブルの生産を行っています。今後3年間に工場規模の拡大を図る予定はありません。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	9,036 t-CO ₂	9,848 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,925 t-CO ₂	10,787 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	3 %	1.9 %	1.4 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	2 %	1.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(本社工場の生産銅量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>昨年度は、市場ニーズ対応(小ロット多品種化)の為に生産効率の悪化や、製品に対する要求品質の高まりにより、エアコンプレッサやチラー等の稼働率が上がり、固定分のエネルギー使用量が増えて、第1年度より削減率が低下してしまいました。 (対基準年度、生産銅量: +10.5%、エネルギー総使用量: +8.8%)</p>	
<p>今年度以降は生産銅量の増加が見込めず、市場ニーズや要求品質の対応でエネルギー使用量の削減が厳しいですが、省エネ対策を進め、最終年度に目標達成出来るよう、温室効果ガスの排出削減に努めます。</p>	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当社では平成13年に環境マネジメントシステムISO14001を取得しています。
 推進体制としましては、社長を環境管理統括者とする環境管理組織を構築し、環境方針に基づき、PDCAサイクルを回しながら、環境管理活動を行っております。
 省エネの推進状況につきましても、四半期ペースでチェックを行い、さらに半年に1回、環境管理委員会で経営層にも報告し、その課題への対応を講じています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	本社工場	コード(1215) モーターの更新	I P Mモーターへの更新を検討、実施する。 (目標年度年間84t-CO2を削減) H28年度実績：3台更新(削減量30t-CO2)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	本社工場	コード(1218) 照明設備の更新	LED照明に更新する。 高効率照明を採用する。 (目標年度年間37t-CO2を削減) H28年度実績：11.4KW削減(削減量36t-CO2)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	本社工場	コード(1215) モーターの省エネ化	老朽化してきたモーターを高効率モーターに更新する。 モーターの整備を計画的に実施する。 (目標年度年間65t-CO2を削減) H28年度実績：4台整備(削減量13t-CO2)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	本社工場	コード(1215) 機器の更新	老朽化してきた機器を省エネタイプに更新する。 (目標年度年間19t-CO2を削減) H28年度実績：3件実施(削減量18t-CO2)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	本社工場	コード(1113) ポンプの運用改善	冷却水循環装置の運用改善とポンプのインバーター化を検討する。 (目標年度年間46t-CO2を削減) H28年度実績：なし	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	本社工場	コード(1113) コンプレッサの運用改善	集中コンプレッサのエア配管ルート変更を行う。集中コンプレッサの分散化、専用化を検討する。 (目標年度年間46t-CO2を削減) H28年度実績：1.4KW削減(削減量4t-CO2)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	本社工場	コード(2221) 輸送方法の選択	輸送には出来るだけ公共交通機関の輸送手段を活用する。(鉄道貨物輸送) H28年度実績：全体の出荷量の22.7%が鉄道貨物輸送	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	本社工場	コード(2226) 燃費の向上	燃費効率に優れた車の導入を検討する。	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱				

(3)その他の抑制対策

1. 全社員を対象とした自覚教育の実施
 - (1) 全社朝礼において、全社員を対象に環境保全の啓蒙教育を行う。
 - (2) 全社員を対象に休憩時、退社時の消灯教育を行う。

2. 省資源の推進
輸送時の荷崩れ防止材の使用量削減を推進する。

3. 有価物化の推進
産業廃棄物を見直し、有価物化を推進する。

実績報告書

届出者	住所	枚方市村野高見台1番40号	氏名	フジパン株式会社 枚方工場 工場長 武藤俊吾
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に食パン、菓子パン等を製造しています。枚方工場を含め、全国で8工場あります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	19,254 t-CO ₂	20,105 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	20,393 t-CO ₂	21,269 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) 0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース) 3.1 %	4 %	4.4 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	4.1 %	4.6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (パンの生産金額)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>平成26年度に導入した省エネ型の生産2ラインの生産増大を図ったことで、温室効果ガスの原単位を削減できた。旧ラインの稼働時間を減少させて、省エネ型ラインの稼働を増やした。平成27, 28年度は外箱洗浄機を最新型に更新して蒸気の使用量を減少させることで全体として年間都市ガスの使用量が減少した。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

定期的開催する省エネ推進部会において工務課長を責任者とし、省エネ活動をより推進しています。定期的に役員、工場長に省エネの提案、報告を行います。年2回 1月と7月に工場内において省エネ活動報告をしています。

エネルギー管理士の2名体制は継続し、事務所の通路に専用の掲示板を設けて工場内の省エネ活動、啓蒙活動を行っています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	枚方工場	コード(1218) 照明設備の導入	省エネ効果の高い照明設備 (Hf蛍光ランプ、LED) に順次更新する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	枚方工場	コード(1121) 箱洗浄乾燥機の更新	パン箱洗浄の乾燥を蒸気を使用した熱交換方式を遠心脱水機型に2台更新する。ボイラの稼働時間が減少し、都市ガス使用量及び電気使用量の削減になる。	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	枚方工場	コード(1125) 折半屋根の塗装	第3工場の折半屋根に断熱効果のある塗装を行い、夏場、冬場の空調の負荷を下げる。	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	枚方工場	コード(1122) 冷凍、冷蔵設備の更新	冷凍庫の冷凍機が経年劣化で消費電力が高む。省エネ型機器に更新。	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	枚方工場	コード(5112) 照明の間引き、デイライト導入。	事務所内の照明の間引きの徹底及びストックヤードの照明等に光センサーの設置を行う。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	枚方工場	コード(5231) デマンド監視装置の活用	夏場にデマンド監視装置を活用して影響の少ない動力(排水処理施設のブロワー等)を一定時間停止する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	枚方工場	コード(1218) 照明器具の更新	構内街灯の水銀灯を電力消費に少ないLED灯に更新する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	枚方工場	コード(1121) 蒸気使用量の軽減	省エネ型スチームトラップの導入でボイラの稼働時間減少から燃料の使用量減少及びCO2排出量を削減する。	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	枚方工場	コード (2123)	エコドライブの推進	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱		エコドライブ の推進		
2	レ	GHG排出	枚方工場	コード (2222)	原材料の納品を共同配送することで納入 車両台数を減らす。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱		納品業者の共 同配送		
3	レ	GHG排出	枚方工場	コード (2113)	構内におけるアイドリングストップの推 進。運転手のマナーの向上、講習会の実 施。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱		排気ガスの抑 制		
4	レ	GHG排出	枚方工場	コード (2121)	協力会社にLNG車の導入を進める。 グリーン経営の認定の奨励	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱		LNG車の導入		

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	592-0001 大阪府高石市高砂2-2-4	氏名	富士屋株式会社 代表取締役社長 池野忠司
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主として食品製造（パン製造業）行っており、大阪府下及び他府県に食品の販売を行っています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	4,052 t-CO ₂	3,279 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,276 t-CO ₂	3,567 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	4.2 %	0 %	0 %	0 %
	レ	4.2 %	1.1 %	2.3 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-1.4 %	-0.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (小麦粉袋数)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

28年度もデマンド監視装置を活用し、ピークカットを実施。30分デマンドを1000kwから950kwに変更。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

各部署別に省エネルギー推進を行う管理体制を制定し、工場長を環境管理責任者に定め、その下に推進委員を設置しエネルギーの使用実績と目標の対比並びに問題点の抽出と対策を検討するとともに温暖化抑制における報告会を毎週行っています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	高石工場	コード (1111) 生産部門、設備部門、間接部門	エネルギー原単位の管理の徹底及び原単位の削減を実施する。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	高石工場	コード (1112) 小麦固の使用量、電力消費量、ガス使用量	会社の各部門が省エネの目標を作成しその精神を図る	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	高石工場	コード (1113) 空気比、温度、圧力	ボイラー、工業炉（オープン）の燃焼管理及び空気比の適正化につとめる。又、ドレン回収、廃熱の利用を進める。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	高石工場	コード (1216) 生産機器の定期点検の実施	生産機器の点検を定期的を実施し、使用エネルギーの効率化及び無駄使用を抑制する。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	高石工場	コード (1218) 燃焼機器設定の見直し	燃焼機器設備の設定を使用時間により変更し、エネルギー消費を抑制する。（ガス使用量の1%削減）	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	高石工場	コード (1215) デマンド監視による制御	デマンド監視装置による監視を行い、ピークカット並びに電力の平準化を行う	27 年度 ～ 30 年度
		人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	高石工場	コード (1216) 受電管理、冷凍機、空調設備	季節毎により設定温度を変更する（夏季：28℃、冬季：20℃）	0 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	高石工場	コード (1216) 空気調和設備の設定温度の最適化	照明設備の更新の際にはHf機器などの高効率機器の導入を行う	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		～ 年度
		人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区高麗橋4-3-10 日生伏見町ビル新館	氏名	扶桑化学工業株式会社 代表取締役社長 赤澤良太
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>全国に6事業所を有し、主に下記三つの事業を行っています。</p> <p>①食品分野、農業分野、工業分野向けにリンゴ酸やクエン酸などの果実酸及びそれらの製剤の製造販売 ②医農薬、写真薬、化粧品、樹脂向け等のファインケミカル中間体の製造販売 ③半導体製造用途向け等の高純度珪素化学品の製造販売</p> <p>大阪府下には本社及び研究開発を中心とする事業所、①の果実酸及びその製剤を主に製造する工場2箇所の計4事業所を有しています。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	8,432 t-CO ₂	9,032 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,885 t-CO ₂	9,480 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
		3 %	2.4 %	2.3 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	2.5 %	2.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
特定事業所の大坂工場は生産量(トン)を原単位ベースとします。	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

空調設備の設定見直し、コンプレッサー圧力設定見直し、蒸気駆動コンプレッサー連続運転の為の保守	
------------------------------------------------	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

工場内で省エネルギー対策の改善検討を進めています。
また小集団活動にて研修教育を進めています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱 平準化				
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1113) 運転管理	食品工場内の空調機設定温度見直し (夏季26℃から28℃、冬季24℃か ら22℃)	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1121) 機器の効率化	既設ボイラ (6台) を高効率ボイラ (5 台) へ更新 (運転効率2%改善)	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 証明設備の効 率化	工場内照明設備をLED化及び自動消灯装 置を設置	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1113) 運転制御	インバーターや圧力スイッチによるポン プの運転制御	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1126) 電力、動力、 熱等の合理化	高効率モーター、高効率照明器具への変 更。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 照明機器、事 務機の適正管 理	照明設備を適宜消灯し、過剰な照明を減 らす。コピー機・プリンター等の事務用 機器の不要時に適宜電源を切る。(年間 0.5 t-CO ₂ を削減)。事務所等の昼休 みの消灯、不要時の電源OFFを実施中。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 空調機の運転 管理	冷暖房の温度設定を各所最適に行えるよ う運転管理を行う。 クールビズを実施 (28年度は5月より10 月末日まで実施)	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (2121)	低燃費車種 (ハイブリッド) への変更 低燃費車種へ の変更	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (2123)	運転者のエコドライブの推進 エコドライブ の推進	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市堺区大浜西町10番地	氏名	ブルーエクスプレス株式会社 代表取締役社長 坂 喜代憲
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>主は一般貨物自動車運送事業で危険物・毒劇物等の特殊貨物物流を中心に行っておる。 また、通関業と複合一貫物流業も同時に行っており、国内拠点は仙台から北九州まで8事業所（運送関係）を有し、海外から国内まで一貫輸送を可能としている。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,439 t-CO ₂	5,572 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,490 t-CO ₂	5,621 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3.1 %	7.3 %	9.8 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	7.3 %	9.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪府内の店舗の運輸部門売上金額)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>昨年度の下期より、デジタコを導入しさらなるエコドライブに取り組んでおります。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

IS014001を推進しており、CO2削減は大きな目標であります。エコドライブによる燃費効率の改善をした乗務員への表彰制度も取り入れ、積載効率の見直しや省エネ運転を継続して推進します。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	本社	コード (5111) 冷暖房の温度 設定を適切に 管理する	冷暖房の温度設定をIS09001方針に基づき設定し管理する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	本社	コード (2125) モーダルシフトの有効活用 をユーザーに 提案	JR貨物の駅のある地域に限られるが、モーダルシフトを活用できる場合は積極的に提案する (CO2削減目標年度までに3%削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	本社	コード (2123) 表彰制度を生かしたエコドライブの推進	燃費効率を上げる意識は根付いてきたので今後も推進していく (CO2削減目標年度までに3%削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	本社	コード (2127) ISOコンテナ 使用や積み 合わせに	ISOコンテナ化の低減と、積み合わせによる1運行の積載効率を向上させる (CO2削減目標年度までに3%削減)	0 年度 ～ 0 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策
